

1時半ごろ。

いた離れの一瞬。

生きていきます、君と一緒に。

Hodiation mi vivigos, kun vi.



KAC Performing Arts Program 2020 / Theater

21世紀の戯曲を読む会

KAC Performing Arts Program 2019 / Theater
ソン・ギウン『外地の三人姉妹』リーディング
photo by Yasuhiko Ishii

21世紀になって20年、京都芸術センターが開設してからも20年。
今世紀に書かれた戯曲を声に出して読む会を通じて、ゼロ年代、2010年代の演劇を再考します。

京都芸術センターでは開設当初から演劇の創作や発表を支援し、また新進の劇作家や演出家の育成や、実験的な取り組みの協働を進めてきました。その間にも、様々な創作が試みられ、戯曲のスタイルも時代とともに刻々と変化しています。かつて書かれた戯曲を読むことで、その時々演劇において問題とされてきたことや、この20年の時間を想像します。

「21世紀の戯曲を読む会」は、演出家や俳優らを進行役に、少数の参加者が戯曲を声に出して読む形で実施します。進行役は幅広い世代や活動拠点から計10名程を招き、この20年の間につくられた戯曲の中からそれぞれが影響を受けた作品や特に重要と感じた作品を取り上げます。各回ひとりの進行役が采配し、参加者は単に傍観するのではなく、戯曲を言葉に出し、そこに立ち現れたものにつ

いて、進行役と共に感じ、考える場となることを目指します。

社会的な出来事との心理的な距離が、それを経験する年齢や場所により大きく異なるように、演劇と出会ったタイミングや戯曲との付き合い方は多様で、今回戯曲を選ぶ理由も、パーソナルなものから他の人と共有が可能なものまで様々です。まさにいまの時代に演劇をつくり続ける進行役の演出家・俳優らが血肉としてきた、同時代の他作家の戯曲。改めて参加者と共に向き合うとき、複数の視座により戯曲が立体的に立ち上がるのではないのでしょうか。

劇作家という個人が生み出した戯曲を、世代や地域の異なる誰かが読み、選び出すことで、個人史と演劇史が重なり、この20年の演劇の実りを改めて味わう機会になるはずです。

幼稚園の頃に毎日通っていた道の4年後が舞台となった戯曲を読んだ時に感じた、急な親密感と交わらない時間の隔たりを思い出します。小さなつながりや発見を通して、この20年がおぼろげに見えてきたらうれしいです。 遠山きなり(アートコーディネーター)

KAC Performing Arts Program 2020 / Theater 「21世紀の戯曲を読む会」

日時：2021年1月29日(金)ー31日(日)
2月12日(金)ー14日(日)

※各回参加者を募集

会場：フリースペース 他
進行・ゲスト：穴迫信一(ブルーエゴナク)、合田団地(努カクラブ)、阪本麻紀(烏丸ストロークロック)、中村彩乃(安住の地)、野村真人(劇団速度)、山口浩章(このしたやみ)、山田由梨(貧乏貧乏) 他
ゲストコーディネーター：谷竜一(集団:歩行訓練)

※1月5日(火)よりウェブサイトにて申込受付開始

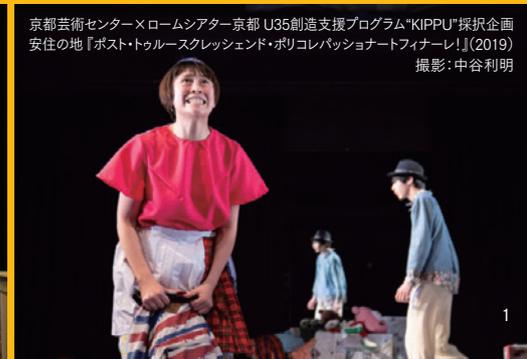
演劇計画II - 戯曲創作 - 柳沼昭徳『新・内山』(2015)



京都芸術センター×ロームシアター京都 U35創造支援プログラム「KIPPU」採択企画 ブルーエゴナク『sad』(2018) 撮影:堀川高志



京都芸術センター×ロームシアター京都 U35創造支援プログラム「KIPPU」採択企画 安住の地『ポスト・トゥルース・クレスシェンド・ポリコレパッションアートフィナーレ!』(2019) 撮影:中谷利明



EVENT CALENDAR 2021.01

各種イベント申込方法（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申込ください。
チケット窓口でも受け付けます。※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示

略称
日 …… 日時 場 …… 会場 席 …… 席主 出 …… 出演、出演
演 …… 演目、曲目 料 …… 料金 定 …… 定員 主 …… 主催
共 …… 共催 問 …… 問合せ 対 …… 対象 持 …… 持物

アイコン 図書室 臨時休室日：1月5日(火)ー14日(木) 休室日：1月29日(金)

音楽 ダンス 演劇 KACセレクトション (共催事業)

※12/14時点での情報を掲載しています。開催状況はウェブサイトにてご確認ください。

2020 12/28 mon. 1/4 mon. 休館日

1/10 sun. **ゴード企画『SYNTHESE -DRAG meets CONTEMPORARY-』**
Co-program2020カテゴリ-D「KACセレクトション」採択企画
●1月10日(日)開演14:00(受付13:00、開場13:15)、開演19:00(受付18:00、開場18:15) ●講堂 ●一般 4,000円(要事前申込・全席自由) ※当日券は残席ある場合のみ販売 ●ゴード企画 WEB：https://godakikaku.wixsite.com/synthese ●京都芸術センター ※詳細はウェブサイトをご覧ください ※P3もご覧ください

1/16 sat. **Cosmo Projekt『Duoの試み Saxophone 井上ハルカ×Percussion 西岡まり子』**
Co-program2020カテゴリ-D「KACセレクトション」採択企画
●1月16日(土)開演18:30 ●講堂 ●一般 3,000円、学生2,000円(当日は各500円増) ●主催・チケット取扱：Cosmo Projekt WEB：https://projektcosmo.wixsite.com/home/contact ●京都芸術センター ※P3もご覧ください

1/22 fri. 24 sun. **アンサンブル・ゾネ ダンス公演『Song of Innocence 無垢なるうた』**
Co-program2020カテゴリ-D「KACセレクトション」採択企画
●1月22日(金)開演19:30、23日(土)開演17:00、1月24日(日)開演14:00 ※各回、開演1時間前受付、20分前開場 ●講堂 ●一般3,000円、学生2,000円 ※当日券は残席がある場合のみ3,500円 ●アンサンブル・ゾネ WEB：https://songofinnocence.jimdofree.com ●京都芸術センター ※P3もご覧ください

PICK UP

2021年 新春TARO便り
伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム
「見鳥のカセドリ糞糞製作技術の確保計画」

2017年に設立された伝統芸能アーカイブ & リサーチオフィス(通称、TARO)では、伝統芸能文化(古典芸能、民俗芸能、また、それらに係わる用具用品・材料・製作技術を含む)において支援を必要とする事業プランを全国から公募し、申請者と共同で実施する「伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム」を実施しています。



見鳥のカセドリとは、佐賀市蓮池町の見鳥地区で小正月に行なわれる行事です。2018年に「来訪神：仮面・仮装の神々」のひとつとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。この民俗行事には特徴的な糞糞が衣装として用いられますが、現在、保存会内に製作者がおらず、新しい糞糞を調達することが非常に困難な状況にあります。

そこで、現在、糞糞工技術を継承する東北の職人にカセドリの糞糞を復元して頂いている真っ最中です。完成後は見鳥地区で収穫した稲を材料として持参し、その職人の工房で講習を受け、保存会で製作技術を習得することを目指しています。

糞糞工の技術は全国的に失われつつあるため、今後、他の民俗芸能でも同様に問題となることが予想されます。今回の取り組みはそうした問題を解決するための一つのモデルケースとなると考えられます。

1/29 fri. 31 sun. **KAC Performing Arts Program 2020 / Theater 「21世紀の戯曲を読む」**
演出家や俳優らを進行役に、21世紀に書かれた戯曲を、少数の参加者で声に出して立ち上げます。
●1月29日(金)ー31日(日)、2月12日(金)ー14日(日) ●フリースペース 他 ※P1もご覧ください

制作支援事業 (制作室使用者による公演・展覧会)

サファリ・P 第7回公演『砕かれた四月』-プロトタイプ-
サファリ・Pがバルカン半島で生きる人々と共同創作を行い、2022年に新作発表を目指す演劇作品のプロトタイプの上演。
●1月22日(金)、23日(土)15:00/19:00、24日(日)11:30/16:00 ●THEATRE E9 KYOTO(南区) ●一般前売3,000円/U25前売1,500円 ※当日は各500円増 ●TEL：080-9462-3355(合同会社stamp) E-mail：safarip.kyoto@gmail.com (サファリ・P) WEB：http://stamp-llc.com

安住の地『iplay!』
"KIPPU"から約2年、岡本昌也・私道かびによる共作第2弾!題材は「スポーツ」
●2月4日(木)ー2月7日(日) ●神戸アートビレッジセンター KAVCホール(神戸市兵庫区) ●安住の地 TEL：050-5867-0892(制作部) E-mail：anjuunochi@gmail.com WEB：http://anju-nochi.com

シナナ『シカクの森で、二人は』
国内外で多くの人々の心を打った写真家・吉田亮人氏の写真集を題材にした演劇作品。
●2月5日(金)19:00、6日(土)14:00/19:00、7日(日)12:00/17:00 ●ウイングフィールド(大阪市中央区) ●一般前売2,500円、アーカイブ配信チケット1,500円 ●シナナ E-mail：c7craftman@gmail.com WEB：https://note.com/c7craftman

OPEN CALL [募集]



Co-program 2021/2022 共同制作、共同開催、共同実験プラン募集!
京都芸術センターは、アーティストが「挑戦してみたい、やってみよう」と温めているプランと一緒に実現していきたいと考え、Co-programを実施しています。採択後は企画内容から広報、運営、発表に至るまで共に協議・実験・フィードバックを重ね、進めていきます。さらに、実現のためにセンターが提供できる場所やネットワークなどの資源も余すことなく提供します。京都芸術センターで取り組みたい理由が明確なプランを積極的に採択しています。申請前の相談も随時受け付けています。多くの皆さまからの応募をお待ちしています。

●応募資格：意欲的な芸術表現を試み、市民との交流に対する意欲を持ちながら活動を継続的に展開している芸術家・芸術団体及びそれらを支援する個人・団体。●応募締切：1月4日(月) ●実施期間：2021年4月1日(木)ー2022年3月31日(木) ※募集カテゴリによって期間が異なります。●応募方法：所定の申請書をウェブサイトからダウンロードし、事業に関する企画書・予算書・活動資料を添えて、E-mailにてco-program@kac.or.jpまでご提出ください。

Co-program 2020 カテゴリ-D「KACセレクトション」採択企画

公演直前インタビュー

今年度京都芸術センターが共催するCo-program 2020 カテゴリ-D「KACセレクトション」に採択された企画のうち、3つの公演を1月に講演で開催します。今回はそれぞれの団体に公演にむけてのお話を伺いました。来年度のCo-programは現在募集中です。様々な分野からの応募をお待ちしています。

ゴード企画

SYNTHESE -DRAG meets CONTEMPORARY-

ゴード企画の合田有紀とドラッグクイーンの出会いは数年前に遡るといふ。合田がMonochrome Circusに参加し、故郷から京都に拠点を移したばかりの頃、DIAMONDS ARE FOREVER※に足を運んだのがきっかけだ。合田は「周囲の評価に左右されずにふるまう様子が気高さを感じた」と語る。

「自分たちのダンスをもっと面白くするために、ダンス以外からも学び、活動を広げたい」と立ち上げたゴード企画では、これまで異ジャンルの講師によるワークショップを積極的に行ってきた。今回の公演は「長年実現を夢見ていた企画」という。「ダンスの公演となると『コンテンポラリーはこうだ』といった固定概念が付き

まといがちですが、ドラッグクイーンは先入観に囚われず面白いものは面白がる人たち。それに対峙する僕たちダンサーも負けていません。観る人にも先入観なく見てほしい。」と意気込む。

タイトルの『SYNTHESE』とは、論理学においてテーゼ(正)とアンチテーゼ(反)を統一して矛盾を解決し調停するという意味を持つ語だといふ。京都芸術センターで、互いの表現がぶつかり合い、調和していく様をぜひ見届けてほしい。

※「京都メトロ」で創業時から続く、ドラッグクイーンが出演する看板イベント。

●1月10日(日)開演14:00(受付13:00、開場13:15)、開演19:00(受付18:00、開場18:15) ●講堂 ●4,000円(前売のみ・全席自由) ※詳細はP2をご覧ください



撮影：草木利枝

Profile

ゴード企画(ゴードキカク)

ダンサーの合田有紀と野村香子を中心として構成される企画団体。合田、野村共にMonochrome Circusのダンサーとして国内外で多くの舞台経験を積んだ後、2017年より独立。2018年より企画ごとに多分野の芸術家と共にチームを作成しコラボレーションを行う「コレクティブカンパニー」スタイルの舞台活動を始動。

Cosmo Projekt

Duoの試み Saxophone 井上ハルカ× Percussion 西岡まり子



『Zeitgenössische Musik -ゲンダイの打楽器オンガクvol.2-』(2018)

公演タイトル『Duoの試み』には様々な作家による音色・音響効果への試み、まだオリジナル編成が少ないので編曲も含めてレパートリーを開拓する事への試み、私達やお客様の新しい音響体験の可能性への試みといった意味を含めています。

京都芸術センターでは過去幾度もこのような実験的公演を支援して頂いており、今回の公演で演奏するのはオリジナル編成(Sax×Perc)：フィリップ・ルルー、ルイス・ナオン、シモン・ステーン＝アナーセンら欧州第一線で活躍する作曲家による作品。もう少し気楽にお楽しみ頂けるジーン・コシンスキ「Get it!」やアストル・ピアソラ「タンゴの歴史」の編曲作品もお届けします。

また日本人作曲家らによる独奏作品もあり、井上は松宮圭太によるバリトンサクソフォン独奏作品を日本初演。西岡は『Zeitgenössische Musik-ゲンダイの打楽器オンガク vol.2-』(2018)公演で委嘱初演し、再演リクエストが非常に

Ensemble Sonne

Song of Innocence 無垢なるうた

アンサンブル・ゾネは1993年に設立、神戸を中心に数々の公演を行ってきた。主宰で振付・演出家の岡登志子は、創作する上で感情を重視し「日々生まれる感情の先にはゆるぎのないもの、いわば無垢なものが存在するのでは」と考えているという。

今回の公演にあたり原点としたのは、舞踏家・大野一雄、大野慶人の作品「睡蓮」を見たときに感じた、踊りの本質をついた無垢さだ。その感動をもとに、自らの内面を振り起こし新たに振付けた。その先には現代社会に生きる自分だからこそ

描く、時代が変わっても変わらない踊りの本質があると信じて。また、岡は現在のコロナ下で身体とも改めて向き合い、「身体を道具として扱うのではなく、自然の素材としてその中にある精神性と向き合うことで踊りが生まれてくること、それは時代を超えるものだ」と感じたという。

本作は既存の作品をもとにしているが、いわば換骨奪胎した新作だ。「お客様には何にも縛られずに自由に鑑賞してもらいたい。そして、何かを得てもらえれば」と岡は語る。

●1月22日(金)開演19:30、23日(土)開演17:00、1月24日(日)開演14:00 ※各回、開演1時間前受付、20分前開場 ●講堂 ●一般3,000円、学生2,000円、当日券は残席がある場合のみ3,500円 ※詳細はP2をご覧ください



『Song of Innocence 無垢なるうた』(2020) ©Ryuhei Yokoyama

Profile

Ensemble Sonne (アンサンブル・ゾネ)

神戸を拠点に活動するダンスカンパニー。ドイツ表現主義で培われたダンスメソッドを基礎に身体訓練を行いながら、現代を生きる人間に共通する身体を通して人間の実存を問う作品づくりを行っている。

特別企画 第6弾

新しい年のはじまりとして、「生まれる」「始まる」というテーマでアーティストに作品の提供を依頼しました。

谷澤紗和子は、2019年から既存の女性像を再考するための切り紙シリーズを制作しはじめました。本作はマティスの「ブルーヌード」をモチーフに、金色の身体には刺青のような模様を施し、輪郭は毛や棘のようにも見えます。既存の女性像を払拭するような刺々しいフォルムや全身をめぐる神経を想起させるドローイングは、力強く生命力にあふれた女性イメージをひらいています。

秋山はるかの「katamari-u」は、土、石、ガラスといった素材、そして焼成するという行為に向き合った作品です。本作の制作時、臨月を迎えていた秋山は、身体の制約によって逆に作品に向き合う時間が増えたといいます。造形に比べ見過ごされがちな素材に注目し、そこに宿る霊性を感じ取ろうとしているようです。

切り取られたイメージを刷新する力強さや、物質や存在から何かを読み取ろうとする視点は、ともに人間のプリミティブな身体感覚に立脚したものとと言えます。物理的な制約とともにある現在の状況の中で、ふたりの作家はそれぞれが想起する「生まれる」「始まる」を身体感覚をもって提示します。



谷澤紗和子《金のヌード》2020

Profile

谷澤紗和子 (たにざわ・さわこ)

切り紙、光と陰によるインスタレーションや、貝殻の焼け跡の残る陶人形などを制作する美術作家。美術館や芸術祭での作品発表に加え、他ジャンルのクリエイターとのコラボレーションも行う。近年は、「妄想力の拡張」「弱者」「女性」をテーマに据えている。2021年2月19日(金)ー3月7日(日)にkumagusukuSAS(上京区)にて個展を予定。
www.instagram.com/kumagusuku_

秋山はるか (あきやま・はるか)

積層すること、一つの塊に散漫な時間が凝縮されていくことをテーマに作品を制作。土やガラスの素材を用い、焼成というプロセスを経ることで、一握りの塊に無限のスケールを閉じ込めるようなモノ作りを目指す。主な展覧会は「ワンダーランド陶アート展」(TKG セラミックス、2012)、「てのひらの現場」(大雅堂、2015)、「ちゃんのおさんぽ」(同時代ギャラリー、2019)、等。



秋山はるか《katamari-u》2019



京都芸術センターは、
2020年4月に開設20周年を迎えました!

テーマは“We Age”
(ウイー・エイジ)

(ロゴデザイン: 松本久木)



最新情報はウェブサイトでご確認ください。

公式ウェブサイト | <https://www.kac.or.jp>

 kyotoartcenter |
  @Kyoto_artcenter

 @kyotoartcenter |
  KYOTO ART CENTER 京都芸術センター

20周年記念グッズ紹介

京都芸術センター開設20周年を記念し、オリジナルグッズを作成しました。窓口にて販売しておりますので、お手に取ってご覧ください。

- ステッカー…200円
- ノート…400円
- [数量限定]ピンバッジ…1,300円
- 風呂敷(赤・青)…1,200円

※すべて税込
販売：京都芸術センター窓口
(10:00-20:00)





京都芸術センター
KYOTO ART CENTER

交通案内

- 市営地下鉄烏丸線「四条」駅/阪急京都線「烏丸」駅
22番出口・24番出口より徒歩5分。
- 市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間

- ギャラリー・図書室・情報コーナー・チケット窓口 10:00-20:00
- カフェ 10:00-20:00
- 制作室、事務室 10:00-22:00

休館日 12月28日から1月4日
※12月26、27日は臨時休館日



〒604-8156 京都市中京区室町通錦薬師下る山伏山町546-2
TEL: 075-213-1000 FAX: 075-213-1004
E-mail: info@kac.or.jp

指定管理者：公益財団法人京都芸術文化協会